



ちば まさふみ
千 葉 正 文
(市民クラブ)

● 地域の水田農業を守るためには ● アメリカシロヒトリから緑を守ろう

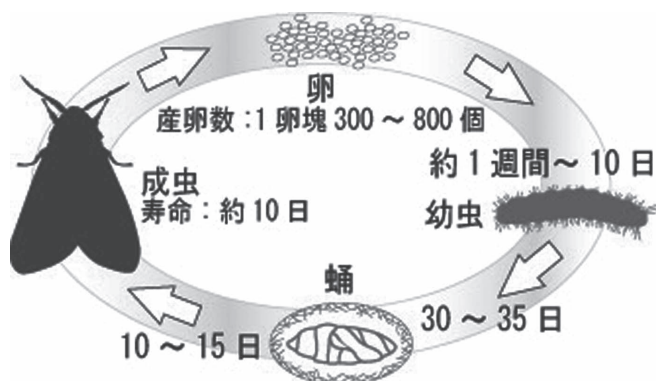
質問 人・農地プランは、地域の水田農業の経営体を大規模にし、強くし、またその経営体の後継者を育てて、将来にわたり地域農業を継続させようとする政策である。奥州市における後継者、農地集積の状況等農業経営体の現状はどのようになっているか。

市長 当市の認定農業者数は1007人、販売農家9448経営体中、10ha以上は80経営体、平成22年度末の農地の集積面積は2095haである。

質問 市としてこのプランをどのように捉え、どのように進めるのか。

市長 地域農業、地域を守るための重要な政策である。集落の現状や考えなどを把握したうえで、地域の話し合いでの合意を得て、市が主体となつて進める準備ができた所からモデル事例を先行し、農地集積への協力金や新規就農者への支援金などのメリットを受ける集落を増やして、地域の水田農業を継続できるようにしたい。

質問 昨年は、アメリカシロヒトリの被害が非常に大きかった



アメリカシロヒトリのサイクル図

が、被害状況と防除方法はどのようなであったか。

市長 民有地、市有地を問わず発生が多かった。市有地の薬剤散布等の経費をみると、最近の3年間は90万円程度であった。

質問 地区センターを核として、地域巡回による早期発見・防除のシステムを協働の力で構築すべきと考えるが。

市長 高枝切り鋏、小噴霧器等を準備し、巡回員を委嘱するなどして、アメリカシロヒトリ防除に取り組むことも検討したい。



なかにし ひでとし
中 西 秀 俊
(創政会)

● 希望と誇りが持てる光り輝くまちを目指して！ — 借金に負けるな・これからだ —

質問 商店街がさびれると市全体の魅力の激減にもつながる。人が来ない所のまちは文化も磨かれぬ。都市間競争力にもおくれる。地域コミュニティが崩壊していく。暮らしている誇りも失せる。心の荒廃は街の荒廃へとつながる。高齢化時代に社会とのつながりの拠点は街なのかと考える。市民を衰えさせないために商店街が元気である必要がある。また、高齢者に絞ったまちづくりも必要ではないか。

買い物難民をできるだけ解消する手立て支援も必要ではないか。市街地に諸機能を集中させたコンパクトなまちの充実が望まれる。各区で個性を出して前向きに対応できたらすばらしい。

市長 人口減少・少子高齢化を迎えているなかで、都市機能の無秩序な拡散に歯止めをかけ、多様な都市機能がコンパクトに集積した、子供や高齢者を含めた多くの人にとって暮らしやすく、賑わいあふれるまちづくりを進める。

中心市街地活性化基本計画では、まちの顔とも言える「まちなか交流館」を中心市街地の集



賑わいが求められる市街地

客拠点と位置づけ交流人口の増加を図ると共に歴史・文化資源を活用した市街地の回遊性向上による賑わいづくりを推進する。メイプルと新設された道路との間の広場は短期的にお借りできるので、イベントや駐車などに計画的に使用も可能である。大町地区は、国の認定を受け事業計画に基づき、歩道のバリアフリー化、空き店舗活用事業などに取り組んでいる。やる気のある商店街や商工団体が取り組む新たな付加価値を提供するこれらの活動を支援し、郊外型大型店とは一線を画し(機能・役割分担)各地区の特性を活かした賑わいづくりを進める。